

-scape

“景”をめぐるって

第1回

3.8 [日]

西洋風景画の歴史から
「伝統への敬意と対抗心：
コンスタブルとターナー」

杉村浩哉 [SUGIMURA Hiroya](#)

栃木県立美術館主任研究員／近・現代美術。「旅するイギリス美術」展（栃木県立美術館、2016）などを担当。

第2回

3.15 [日]

未来に残す「景観」とは
「ランドスケープ遺産
インベントリーをつくる
—保全すべき風景とは何か、
どう考えるのか—」

温井亨 [NUKUI Tōru](#)

東北公益文科大学教授／研究テーマ 風景計画、建築、まちづくり・むらづくりなど。日本造園学会東北支部常任運営委員、ランドスケープ遺産インベントリー作成委員会委員。

第3回

3.22 [日]

音と人との関係を探る
「世界の聴診
—サウンドスケープという
アイディア—」

永幡幸司 [NAGAHATA Kōji](#)

福島大学教授／サウンドスケープ研究に携わる傍ら、フィールド録音を手掛ける。ISO/TS 43/SC 1/WG 54（サウンドスケープに関する国際標準策定）メンバー。

第4回

3.29 [日]

写真を通して「日常」を見る
「コモンスケープ
ありふれた風景」

和田浩一 [WADA Kōichi](#)

当館学芸員／近・現代美術。「コモンスケープ 今日の写真における日常へのまなざし」展（宮城県美術館、2004）などを担当。

14時—16時 [各回とも]

佐藤忠良記念館（宮城県美術館別館）地下1階アート・ホール

-scape